

お忙しくても、約2分間で読めます

山内公認会計士事務所

# ハートフル・ワード (心からの言葉)

TEL 098-868-6895  
FAX 098-863-1495

## 経営者への活きた言葉

「天の啓示であり、天訓である」(松下幸之助) 中 博(「中塾代表」京都大学卒業松下電器産業入社)

- 「松下幸之助発言集」(全45巻)を仔細に読むと、コロナ対策は全部書かれていると感じます。幸之助さんだったらコロナの危機をどう考えるだろうという視点で僕は読んでみたんですけど、この人がすごいと思うのは、どの巻にも危機を目前にしてどうするかということが必ず出てくる。幸之助さんほど、危機を自分の人生の要にする人はいない。おそらくこの人は危機を糧<sup>かて</sup>にして成長していった人だと感じました。
- 例えば、日本が敗戦した昭和20年8月15日の翌日に、社員に向けてこうスピーチしています。「目前の破局は天の啓示であり、天訓である」。これはすごいと思います。たぶん幸之助さんがこの状況を見ても、「眼前のコロナ禍は天の啓示であり、天訓である」と言うと思います。
- 新型コロナウイルス以上に多くの死者を出したスペイン風邪が日本で流行したのは、1918年から1920年です。ちょうどその最中に松下電器器具製作所は設立されている。前後の年を見ると、日立製作所とか白洋舎とかマツダとか、いま日本を代表する会社が勃興<sup>ぼっこう</sup>しています。サントリーの鳥井信次郎もスペイン風邪にめげず、赤玉ポートワインを売っていくわけです。だからこういう危機の時こそ後ろへ退かず考え抜いたら、新機軸が出てくる。

(参考:「致知」2020年10月号)

## 経営者のための危機管理

### 戦後最悪の失業率

- 国内で新たに265万人の失業者が発生し、失業率は戦後最悪の6%台まで上昇する。2016年から5年間、日本銀行政策委員会の審議委員も務めた、野村総合研究所の木内登英エグゼクティブ・エコノミストは、こう予測する。日本の失業率の定義では、休業者は失業者に含まれない。こうした失業予備(隠れ失業者)を考慮すると、実質的な失業者は欧米並みの「2桁に達する恐れがある」(木内氏)。
- コロナ禍が引き金となり、大失業時代が到来する。東京リサーチは今年、全国で6万社以上が消えると予想する。(2019年の倒産件数は11年ぶりに増加し8383件)休廃業・解散の調査を始めた2000年以降、この水準になるのは初めての事態だ。

(参考:「週刊ダイヤモンド」:2020年7月25号)

## ワンポイント経営アドバイス

### 未来の工場に3つの類型

西岡 靖之(法政大学デザイン工学部教授)

- 30年ほど先のイメージだが、工場が進むべき方向性には3つの類型があると見ている。一つが「コンビニ工場」。消費地に近いところで、消費される直前に生産される。物流業界の配送センターのような密度で配置し、複数メーカーの様々な製品の最終工程を担う。「シェアリング工場」が第2の類型だ。今の製造受託企業をもっと小分けにするイメージになる。例えば、プレス機械やプリント配線板製造ラインなど、特定の設備や工程に特化して規模のメリットを得る。製造を受託する企業は、設備を持たずに販売量に応じて規模を調整できるようになり、工場は稼働率を高められる。
- 最後が「コネクテッド工場」だ。機械加工や化学処理など特殊な技術を持つ中小規模の工場が進むべき方向だ。調整や契約などモノの搬入・搬出以外のやり取りをすべてデジタルデータにし、品質保証のために検査結果なども細かく開示する。

(参考:「日経ビジネス」2020年8月17日号)

## 古典に学ぶ

### 天海に帰依する

(解説) さらにまた注目すべきは仏教であります。初め三河の大樹寺に帰依して、僧侶とご親交があったようであります。しかして大樹寺は浄土宗であります。ついで芝の増上寺の住職をも召され、駿河にお移りになってからは、南光坊天海にご帰依になって、しばしばその説をお聴きなされたように見受けられます。

(参考: 渋沢栄一「論語と算盤」: 国書刊行会)